

# 令和5年度 特別活動を要とした キャリア教育の充実を目指して

## 学校教育課通信

令和6年1月30日（火）第194号  
編集・発行：県南教育事務所 笠原聡美

11月22日にキャリア教育推進事業実践研究発表会が棚倉中学校で行われました。学級活動、数学科、保健体育科の授業が公開され、分科会においてグループ協議を行い、研修を深めました。さらに、甲南女子大学村川雅弘教授から「子ども自身による学びや生活のマネジメントと小中接続」と題し、ご講演をいただきました。他県の事例を基に、様々な視点からカリキュラム・マネジメントの重要性について学ぶ機会となりました。



### 研究主題 「自分のよさを伸ばし、『なりたい自分』の実現に向けてチャレンジする生徒の育成」 ～生涯の学びを支える自己マネジメント力の育成～

1年1組 学級活動（3）	渡邊 蓮 教諭	「第三四半期の目標に近づくために」
2年3組 学級活動（3）	生方 彰 教諭	「志を立てよう」
3年1組 数 学 科	太楽 竜一 教諭	「三平方の定理」
3年3組 保健体育科	渡部 勇人 教諭	「感染症の予防」

棚倉中学校では、「生き方」を考える立志教育や特別活動を中心とした生徒の自発的・自治的な活動の推進、総合的な学習の時間における探究的な活動の推進、「ほめポイント」の明確化と共有など、教育活動全体を通してキャリア教育に取り組んできました。また、学級活動や各教科等においても「価値付け・つなぐ・語らせる」に重点を置き、教師の肯定的な関わりの中で、生徒が自分で決める場を設定し、授業を行いました。実践研究発表会の参加者からは、小中の接続や生徒の話合いの様子、教師の関わりなどについてたくさんのご意見をいただきました。ありがとうございました。

### 〈参加者の感想より〉

- ・ それぞれ建設的な発表をしていた。学習規律もしっかりとされており、小学校と連携して継続した指導がされていると思った。（1年学活）
- ・ 学級という小さな社会の中で、自分にできることを考えることは、社会に出たときに自分のよさをどう生かすかを考えることにつながることを学びました。（1年学活）
- ・ 心理的安全性の配慮がたくさん見られ、子どもたちが安心して学習していました。（2年学活）
- ・ 先生が生徒のよいところをしっかりと受け止めているので、生徒も自然に友だちのよさを認め、受けて止めているように感じた。（2年学活）
- ・ 「価値付け」「つなぎ」「語らせる」という子どもたち主体の授業をしていることに関して小学校と接続できていることが分かりました。（3年数学）
- ・ 中学校の数学の内容でも小学校の算数と同じように、子どもを引きつける導入や数学的な楽しさというものは大切なのだと感じた。（3年数学）
- ・ 熱心に教材研究をされ、授業づくりに取り組んでいたことが伝わる授業だったと思います。子どもたちと一緒に授業を作っていく先生の姿がすばしかったです。（3年保健体育）
- ・ 中学3年生の発達段階に応じた、生徒との関わり、関係性のよさが感じられた。（3年保健体育）
- ・ 先生方が育みたい資質・能力を明確にし、一貫して授業に取り組まれました。子どもたちが考える場面もできる限り設定されていたと思います。（全体を通して）

# 特別活動を要としたキャリア教育の推進について

キャリア教育は、今学んでいることが将来や自分の生き方につながっていることを認識できるようにすることが大切です。特別活動を要としながら、教育活動全体を通して、社会に参加するための基礎的・汎用的能力を育成していくことが求められています。みなさんの学校ではどのように取り組んでいますか。特に学級活動（3）は、学習指導要領改訂の際に、小・中・高等学校のつながりが明確になるように系統性をもって整理されました。将来に向けた自己実現に関わる内容で、一人一人の主体的な意思決定を大切にする活動となっています。キャリア・パスポートを教材として活用することが効果的です。

## 小学校

学級活動「（3）一人一人のキャリア形成と自己実現」

- ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成
- イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解
- ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

## 《キャリア・パスポートの活用》

- ・記録を基に話し合い活動を行う。
- ・自己評価、相互評価を行う。
- ・教員・保護者のコメントにより対話的に関わる。
- ・学校外の内容について記録する。

※ キャリア・パスポートは小中高と引き継ぎ、記録を蓄積していきま  
す。キャリア・パスポートの活用によ  
って児童生徒が自分の成長や変容  
を確認できるようにしましょう。

## 中学校

学級活動「（3）一人一人のキャリア形成と自己実現」

- ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用
- イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成
- ウ 主体的な進路の選択と将来設計

## 「キャリア・パスポート」とは？ 改めて確認を!!

- ・ 児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるもの。
- ・ 教師にとっては、その記述をもとに対話的に関わることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

大切なのは教師の対話的な関わりです。



【キャリア・パスポート】筑波大学人間系教授 藤田 晃之。独立行政法人教職員支援機構を基に作成

各学校においては、キャリア・パスポートの記録と蓄積が行われていると思います。キャリア教育の中核となるのは「見通しを立て、振り返る」活動です。特別活動や各教科等において、キャリア・パスポートを活用し、一人一人のキャリア形成につなげていきましょう。

また、キャリア教育の要である特別活動の学級活動において、学級活動（1）（2）（3）それぞれの特質を踏まえた実践的な取組を行っていきましょう。各教科等の学びと特別活動における学びを往還させ、自己の将来や社会づくりにつながる力を育成していくことが重要です。教育課程編成において、キャリア教育や特別活動の計画を改めて見直してください。

## 【キャリア教育・特別活動に関する資料】

具体的な例をもとに説明されている資料です。指導の際に、ぜひご活用ください。



文部科学省  
「小学校キャリア教育  
の手引き」



文部科学省  
国立教育政策研究所  
教育課程研究センター  
「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」



文部科学省  
「中学校キャリア教育  
の手引き」



文部科学省  
国立教育政策研究所  
教育課程研究センター  
「学校文化を創る 特別活動（中学校・高等学校編）」

